

全連小 対策担当者連絡協議会の報告をさせていただきます。

この会の位置付けだが、道小が行っている会長研修会と同様のものと認識している。ここで話し合われたことをもとに、文科省への働きかけにつながっていくものと感じている。

対策部会の今年のテーマは、「働き方改革」と「GIGA スクール構想」であった。昨年は、会長研修会や道教委との意見交換会等の情報だけで報告を作ることができたのだが、働き方改革は、情報不足であったため、全道の理事の方々に協力をいただきながら資料を作成した。北海道分については、後ほどご覧いただきたい。

全国の状況について荒川全連小対策部長がまとめてくださったので、そちらを中心にお話しさせていただきます。

働き方改革では、出退勤のシステムと校務支援ソフトがほぼ導入されていることが確認された。私が聞いた話の範囲では、北海道は出退勤システムが 100%導入となっていたが、校務支援ソフトに関しては、今年中という回答やこれからという市町村が若干ある状況であった。

専科指導については、教科や数などがばらばらの実態であった。週当たりの担任の持ち時間数が、北海道は未だに多いということも実感した。全国平均を出したわけではないが、平均 24～25 時間ということを感じることができた。これは全国的な傾向であると思うが、小さな市町村ほど、専科が入りにくいという実態もあるように感じた。

最も対策部長が熱く語っていたことは、専科指導と絡め、児童が下校したあと休憩時間を除けば、30～40 分程度しか勤務時間が残っていない実態についてである。ここを改善していかないと、働き改革が進んだとは言えないということであった。

続いて GIGA スクール構想について。タブレットが未配というところはなかったが、周辺機器や Wi-Fi、支援員などについては格差があった。

オンライン授業は、まだ授業というレベルにはなく、主体的、協働的で深い学びには向かって行きにくいという話がたくさんあった。授業となると、やはり評価ができるということが前提となるということも話題となった。同時に、ICT に対するスキルは確実に上がってきていることが認められるという話もたくさんあり、納得できる内容であった。